

当館におけるアフターコロナにむけた 遺伝子検査の現状と課題

◎山口 健太¹⁾、佐野 由佳理¹⁾、矢野 智彦¹⁾
田口 舜¹⁾、香月 万葉¹⁾、平野 敬之¹⁾

地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館¹⁾

2019年12月に SARS-CoV-2 による新型コロナウイルス感染者が初めて報告され、2020年3月には、佐賀県でも最初の新型コロナウイルス感染者が確認された。当館は、県内唯一の第一種感染症指定医療機関として積極的に患者を受け入れ、佐賀県における新型コロナウイルス感染症診療に貢献している。当館には、SARS-CoV-2 遺伝子検査機器として、LAMP 法専用のリアルタイム濁度測定装置 Loopamp EXIA (栄研化学株式会社)、GeneXpert システム (ベックマン・コールター株式会社) などがある。当館の新型コロナウイルス遺伝子検査は、定期入院時や手術前のスクリーニング検査として LAMP 法、時間外や疑い症例、緊急入院時や手術前の検査を GeneXpert で実施している。しかしアフターコロナにむけ、これらの機器を有効活用することは今後の課題である。その一つの取り組みとして、当館では GeneXpert を用い、血液培養からの MRSA 遺伝子検出、糞便からの *C. difficile* トキシン B 遺伝子検出を2021年度より開始した。血液培養よりブドウ球菌を検出し、培養液の直接同定で *S. aureus* と同定された場合は、全例遺伝子検査を実施している。これにより塗抹報告より約2 時間で MRSA かどうかの報告が可能となった。また糞便からトキシン B 遺伝子検査を実施することで、迅速診断キットでは検出できないものも感度良く検出することが可能となった。当館では迅速診断キットで、GDH (+)、トキシン (-) の場合は、全例遺伝子検査を実施している。以前はこのようケースの場合、培養検査を実施し、発育したコロニーから迅速キットにかけ、トキシンの有無を報告していたため最終報告するのに2～3日かかっていた。しかし遺伝子検査を実施することで、約1.5時間でトキシンの有無を報告することができている。これらの遺伝子検査を実施することで、臨床にとって有用な情報を、迅速に報告することが可能となり、治療や感染対策に貢献できていると考えている。本シンポジウムでは、当館の新型コロナウイルス検査の現状に加え、アフターコロナに向けた取り組みと今後の課題について紹介する。